登山月報

ジャパンカップ2014長崎 …… 1
2014 UAAA理事会（香港）報告 …… 2
平成26年度国際委員総会及び 第33回海外登山遭難対策研究会 報告 …… 4
自然保護常任委員研修会 …… 6
第68回 Mountain World …… 7
【新連載】北から南から ブロック便り …… 8
日本の登山界を代表する日山協のあり方 …… 9
ミック・ファーラー氏来日 …… 10
ＪＭＡ、寄贈図書、編集後記 …… 10

ジャパンカップ2014長崎、大田理裟・松島暁人が優勝

６月７日、８日、長崎県大村市において第28回となるリードジャパンカップが開催された。

女子予選は大量21名が完登、さらに26位タイが６名となり31名がセミファイナルに進んだ。男子予選は樋口純裕、清水裕登、松島暁人の３名のみが完登、こちらも26位タイが３名いて28名が通過した。

男子セミファイナルはさらに難度は増し、かつトリッキーなルートとなった。完登は松島と波田悠貴のみ。女子も一転して正確なムーブを要求される厳しいルートで完登はなし。義村萌が最高到達点をマークした。

ファイナルは女子から。中間部で左の壁から右の壁に移動するという凝った内容だ。ここで本命大田理裟が気迫にあふれたクライミングを展開、２位の義村に大差をつけ優勝した。

男子はその逆のラインで、右の壁から左の壁にトラバースする。清水裕登が無駄のない登りで最上部に達する。最後に本命松島が登場。清水と同成績となりカウントバックで優勝を手にした。

予選、セミともに時間切れとなってしまったが、小学５年生の森秋彩（あい）は今後が期待される。あと１割増のスピードで登ることができれば、確実に決勝進出していたであろう。ちなみに森は2012年のアルコジュニアで優勝している。　（写真・文＝北山　真）

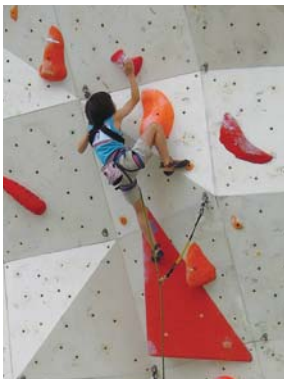
男女準決勝

男子		女子	
1	松島　暁人	1	大田　理裟
2	清水　裕登	2	義村　　萌
3	樋口　純裕	3	水口　　僚
4	中野　　稔	4	錦織　美里
5	波田　悠貴	5	菊沢　　絢
6	島谷　尚季	6	廣重　幸紀
7	野村真一郎	7	原田　朝美
8	羽鎌田直人	8	大澤　咲子

ファイナルの松島暁人

ファイナルの大田理裟

将来が楽しみな森秋彩



2014 UAAA理事会（香港） 報告

出席者　神﨑会長、広島県岳連・山田雅昭副会長／理事長、佐伯尚幸国際委員、小野寺斉（記録）

日　程　2014年５月30日～６月２日、30日午後に空港到着。中國香港攀山及攀登總會（CHKMCU）の創立30周年記念祝賀会に参加する。31日に理事会、６月１日に香港付近の地学的歴史の紹介を受け、２日に帰国となる。

場　所　宿泊及び会議は同じホテルで行われた。海岸に近い空港から40～50分の所にある「L'hoyel Causeway Bay Harbour View Hong Kong」

主　管　中國香港攀山及攀登總會
（China Hong Kong Mountaineering and Climbing Union）

1.事前処理

前年度の活動報告とのことで、事前レポート提出依頼があり、パワーポイントで作成して香港及びネパールに送っておいた。

2.参加国

日本（JMA、労山）の他、会長国である韓国（KAF）、主管の香港（CHKMCU）、台湾（CTAA、CTMA/中華民国健行登山会）、ネパール（NMA）、キルギス（KAC）、モンゴルの合計７ヵ国、９団体となる。さらにCHKMCUのスタッフが参加。インドはいつものように欠席。イラン、パキスタン及び中国も欠席となる。

3.香港について

多くの方々がご存じのように1997年７月にイギリスから中国に返還された。現在は特別区となっており、九龍半島、香港島、新界などを含み中華人民共和国香港特別行政区となっている。面積は1100平方キロで札幌とほぼ同じで人口は700万人である。夜景も有名である。一番高い山の標高は960m程度である。

4.議　事

4-1　開催に当たって

⑴ヒマラヤ等で亡くなられた方々に対し黙祷を行う。

⑵開催国であるCHKMCUの会長のLEUNG Nim-ho Conway挨拶。「お忙しい中来て頂き皆様に感謝申し上げます、楽しんでお帰り下さい。」とのこと。

⑶UAAAのインジョンリー会長の挨拶。「CHKMCUも30周年ということでUAAAとはよい関係を築いてきました。我々の20周年もJMA神﨑さんの大いなる貢献があります。エベレストで亡くなられた方々に心より哀悼の意を表します。日の出のアジアです。自然保護など多方面に向けて頑張りましょう。欠席のパキスタン、インド、イラン、中国は夫々手紙をくれました。忙しいシーズンで出席できないとのことでした。CAC（韓国アルパインクラブ）は会長が代わりました。イランでも会長が交代しています。」

⑷定足数の確認を行う。議事次第変更・追加の提案はなく、昨年の総会の議事録の確認となる。が、肝心の昨年総会を行ったパキスタンからまだ出て来ていない。催促中とのこと。

4-2　各加盟団体からの活動報告

⑴JMAは例によりパワーポイントを使用して海外遠征、国内外のクライミング選手権やイベント等の結果報告及び、国内の各種イベントの報告を行った。３国合同技術交流会の実施予定地の谷川岳の紹介及びUAAA20周年記念総会の広島について紹介を行った。

⑵労山はクリーンハイクの実践や山岳地帯における福島第一発電所による放射能の影響の調査などについての発表を行った。今年、鈴木百合子と大部良輔の両氏が世話になるキルギスは、レーニン峰登頂を目指すのは６人、テクニカルルートの挑戦者は４人、ハイキングは２人とのこと。台湾は東松山で開催し

ているスリーデーマーチに参加しているらしい。他の国々も夫々発表したがやはり以下のネパールの発表が気を引いた。ただ、恐らく政治的な背景もあり発言には慎重であった。

⑶ネパールのシェルパ16人死亡の件についての発表。この雪崩事故についてはJMAも神﨑会長名で弔電（メール）を入れたが、この席を借りて、皆様にお悔やみに対するお礼があった。亡くなった16人の氏名が発表された。政府に対しても100万ルピーの要請はした。遭難保険もかけてはいたが、不十分であった。ヘリコプターが４～５回飛べばお金はあっという間に無くなる。雪崩ビーコンは持っていたか、とキルギスからの質問に対しては一部は持っていたとのこと。キルギスでは雇い人が保障するようになっている、何かあると政府がドクターヘリを飛ばす。どうしたら家族を守れるか対策を考えた方がよい。メスナーは金に関する全責任はエージェントにあると言っている、との発言があった。インジョンリー会長から3200ドルの寄付があった。また、昨年ネパールで行われたクライミング大会には1万ドルを寄付している。野口健氏と関係がある7サミット支援団体からも10万ドルの寄付があった。政府も支援団体の設立を許可し、MDRSF（Mountaineering Disaster Relief & Support Fund）が設立され、今度の事故以外も含み遭難者の家族を支援する団体が出来た。

⑷ネパールに関する別の話で、最近新たに104のピークを開放した。その中にはUAAAピーク（6476m）も含まれる。また、ヒラリー・ピーク（7681m）、テンジン・ピーク（7981m）、エルゾーグ・ピーク、ラシュナル・ピーク、ピーク・ホーリーなどがある。合計で414のピークを開放。そのうち384を政府が、30の低いピークをNMAが管理する。昨年の9月から今年の5月まで315のチーム（登山隊、トレッキング隊）、2100人のクライマーがネパールに来て、大凡60,000人のガイド、コック、ポーターなどが雇われた。

［昼食ブレーク］

今回から新規会員については履歴書を出してもらっているとのことで、労山の浦添新理事長、イランのReza Zarei新会長の顔付きの履歴紹介があった。浦添氏は主に東日本の災害からの復興を願うべく積極的に活動しているとのこと、イランの新会長は40歳代と若く、ヒマラヤ等多くの高峰登山を実践、成功しているとのこと。

4-3.UAAAのWebについて

多くのニュースを掲載しているので是非閲覧してほしいとのこと。

4-4.財務報告

約３万ドルの預金がある。相変わらず入金しない複数の国がある。これらについては別項目での議論とする。

4-5.メンバーシップ

⑴バングラディシュ山岳連盟が加盟したい。わずか25人の山岳連盟であるが海外登山も行い積極的に活動しているとのこと。総会で加入を決定する。次はモンゴル、以前も経緯については紹介しており詳細は書かない。ただ、従来の２つの連盟から抜けて新たに個人の山岳会を作り、それでUAAAに加盟したいとのこと。モンゴル国として承認された会の証明書等を総会に提出するという条件で総会にて決定する。

⑵次に従来からの加盟団体ではあるが会費を支払わないタイ、マレーシア、シンガポールなどをどうするか、である。これらの国々はクライミングの連盟には加入して活動しているようである。神﨑会長は10月の開催における招待状はこれらの国々にも送ることを表明した。また、会費を支払うことが出来ない弱小団体については、アンツェリンがUIAAではそのような団体に対しては支援策を作って救済し

会議風景

集合写真

ようとしている。UAAAも真似たらどうか、とのこと。何れにしても総会までに手紙を出して、それらの返事如何により決定したいとのこと。

5.UAAA20周年記念事業

⑴合同遠征

本来は今年の4月開催予定であったUAAA峰（6476m）への合同遠征であるがネパール国内事情（選挙とそれに伴うNMAへの影響）により延期になっていた。今は情勢が安定してきたので秋に行いたい、9月17日にカトマンズに集結しそれから25日間とのこと。

⑵広島における記念式典と山岳平和祭

神﨑会長が日程全般（11月22日～26日）について説明。さらに記念の小冊子を作りたい旨を表明し各国に対し見開き2ページの活動紹介を要請した。自然保護関連の事業で各国各団体の報告をどの日程で開催するかは出来るだけ早い時期に決定し、各国に通知する。

6.その他

以下の項目はUAAA事務局から提案された内容である。

⑴ポカラの山岳博物館の拡張、特に異議なし。

⑵パキスタンでユース・キャンプを開きたいとのこと。タリバンに襲われる心配はないのか、などの意見が出された。しかしパキスタンは欠席しており、開催される可能性が高い。

⑶年間プロジェクトとして合同レスキュー研修会を開きたい。これは前回も話に出たことであり、通常は日中韓技術交流研修会のように毎年行うが5～6年に1回は他の国々とも合同で開催したい。

⑷山岳スキーについて、現在はやはり日本、中国そして韓国が相互に交流しながら行っているが、事業として他の国も入れて行いたい。これも前回出た話ではあるが、台湾などはあまり積極的ではない。ASMF（Asian Ski Mountaineering Federation）構想がある。

（記　小野寺斉）

平成26年度国際委員総会及び第33回海外登山遭難対策研究会 報告

6月14日、15日の両日に亘って、国際委員総会および海外登山遭難対策研究会が、長野県山岳協会の協力のもと、長野県大町市の山岳総合センターを会場に開催された。参加者36名、講師やスタッフも合わせて60名を超える人数での研究会になった。

プログラムの最初は委員総会。まず神﨑会長から挨拶があり、公益法人化して2年目になる日山協はもっと公益法人としての意識を持たなくてはならない。登山に合った組織を登山者が考えていかなくてはならない、と登山界の現状に対応できる組織作りの必要性を呼びかけた。また、11月に広島で開催するUAAA総会と山岳平和祭への協力を求めた。続いて主管である長山協の唐木会長よりご挨拶をいただき、山の日も制定され、山や自然に触れることの価値も認められるようになってきた今こそ、岳連・協会の存在意義も高まっている、との励ましのお言葉をいただいた。

委員総会では、通常の事業と予算に関する報告の後、この一年に日山協国際委員会で話し合われた内容を報告した。より利用しやすく改訂した海外登山奨励金の規約改定について、また、海外諸団体から事務局に来るイベント案内への対応方法について試行している現状を話した。そして各岳連・協会の代表者から最近の状況を簡単に報告していただいて、今後も緊密に連絡をとりながら進めていくことを確認して閉会した。

このあと遭難対策研究会に入り、最初の講演は、谷口けいさんによる「世界の山から見たニッポン－未知への飽くなき憧れ」。昨年のディラン・シスパーレ登山の報告をメインに、海外登山の魅力、そしてそこから見える日本の山の魅力について話していただいた。自分はすごいクライマーではなく、未知が好きで世界を旅しているだけ、という谷口さん。四季があり潤いのある日本の山が一番好き、しかし一番難しくて一番怖いのも日本の山、という言葉が印象的でした。

次は寺沢玲子さんより「派遣母体を持たない登山隊留守本部の心得」というお話をいただいた。遠征隊の留守本部は何もなければ問題はないが、一旦事故が起きると、情報伝達や国内の情報管理、現地への対応など、慣れない難しい対応を迫られることになる。そんな留守本部だからこそ、出かける隊は有事の際に十分に対応できるだけの準備を留守本部に残していかなくてはならないし、留守本部を受ける側も、自分が背負うことになる責任をよく考えて心構えをもって受けなければならない。寺沢さんの経験談を紹介していただく形を取ったが、遠征の事故で混乱する話は参加者に

も身に覚えのあるものが多く、みな集中して聞き入っていた。これまで取り上げられたことの無い地味なテーマであったが、実はとても重要な問題であることを再認識した。今後も機会あれば、このテーマを取り上げてみたいと思う。自身の過去の経験談など、話しづらい内容も紹介していただいた寺沢さんには感謝いたします。

翌日は高所順応に関して２題。長山協理事長の大西浩さんには「高所遠征によって得られた順応－SpO2改善効果の持続について」と題して、高所順応が山を下りた後どれくらい残るかについて、ご自身の中国遠征の折の調査例を報告していただいた。まだサンプル数が不足しているとのことでしたが、おおよそ３か月くらいは効果が持続するのではないか、とのことでした。

最後は鹿屋体育大学の山本正嘉先生による「高所登山のための体力・順化トレーニング―日本でできること・現地ですべきこと」の講演があった。まず高所登山のトレーニングを、登山体力と高所順応に分けて考えることを提案。日本の山より標高差のある海外の山を登るには、それに見合った体力を準備しないといけないとのお話があった。また順応に関しては、国内2000m以上の山であればその低酸素刺激（SpO2の低下）を上手く利用して4000m台程度の順化は可能であろうということ、そして日本国内ではいかに高く登って低酸素刺激を得るかを考え、現地ではいかに低く下りて回復を図るかが大切。体力を温存しながら効率よく順化するためには、刺激を間欠的に与えることが理想であることなどの説明があった。そして先生が集めた情報から、ある高度に十分に順化すれば、そこから2000m上の高度までは順化が得られるのでは、という仮説に、参加者からも意見が出て、議論がされた。論理的に整理、考察されたトレーニングや順化理

山本正嘉講師

谷口けい講師

論は、参加者にも分かりやすく、今後の登山に活かされるものと感じた。内容が濃く、2時間以上の時間を取ったが十分な意見交換や議論がされるためには、もっと時間があっても良かったと感じた。時間いっぱいまで質疑応答が続き、閉会となった。

今回は、総会の後に開催する遭対研に、より多くの一般の方に参加していただきたいと考え、山岳雑誌、ネット雑誌以外に地元新聞数紙にも開催告知を載せていただいた。広報活動は広くできたと思う。そして参加者36名は、ここ数年の中では多い数字であるが、もう少し当日参加者があっても良かったのではないかと思った。しかし、各講演の内容は素晴らしく、参加していただいた方々には実のある研究会を提供できたのではないかと思っている。夜の懇親会も50名近い参加があり、楽しそうに談笑する輪があちこちにできている様子は、開催した側としても大変嬉しく感じた。この研究会が、多くの方の海外登山の手助けとなれたなら、嬉しく思います。

最後に、主管を引き受け運営を担っていただいた長野県山岳協会の皆さまに改めてお礼申し上げます。

（国際委員長　澤田　実）

創業45周年記念“特別企画”
最高級ロッジでめぐるエベレスト展望
ヘリコプター・トレッキング 9日間
発着地 東京・大阪・名古屋・福岡　旅行代金
出発日 10/24(金)・11/14(金)　¥428,000
※燃油サーチャージ（2014年6月30日現在：目安約37,000円）が別途必要です。
旅行企画・実施　観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033　名古屋 ☎052-581-3211　福岡 ☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

自然保護常任委員研修会

平成26年６月14日~15日の２日間、御岳山（東京都青梅市）にて自然保護常任委員研修会を開催し、坂口三郎顧問をはじめ24名（常任委員及び関東地区山岳連盟自然保護委員を含む）が参加した。

昨年11月に仙台で開催された環境省の主催で開かれた第１回アジア国立公園会議で『自然の聖地』と保護地域の討議がされ、聖地における精神的・文化的作用が果たした生物多様性への役割が着目され、「地域の文化やその精神性」と結びつけた「新しい自然保護」のあり方への検討が示唆された。このこともあって、山岳信仰の事情を聴取することを目的に御岳山をベースに２日間の研修を行った。

第１日目に、御岳ビジターセンター職員の柄澤洋城氏から「御岳よもやま話し」と題した講話と、御岳神社主幹宮司の片柳光雄氏から「山岳信仰」と題した講話を聴講した。

第２日目は神社所有地となる七代の滝～ロックガーデン～綾広の滝とのコースで植生を巡検した。

■柄澤洋城氏講演要旨

御岳山は秩父多摩甲斐国立公園の東端にあって、年間８万３千人が訪れる。海抜が約850m付近の限られた土地に39世帯で150人ほどが暮らし、武蔵御岳神社と27軒の宿坊を中心に御師集落を形成している。関東一円から多くの崇敬者を集め、江戸末期から現在まで続いてきた。山の上の孤立していることから、つい最近まで、水や交通などの生活基盤が厳しい状態であった。そのことが逆に、きちっとした社会規範と強い絆で結ばれた共同体社会として独自の文化を醸成した集落となっている。

御岳の代表花はレンゲショウマで、全てが自生したもの。下刈りなど少し手をかけながら増やしてきた。最近ではシカの浸入が見られ、レンゲショウマへの影響が心配されている。動物ではムササビが、かなりの頭数が生息している。必ず見ることができるので、ビジターセンターでも観察会がしばしば企画されている。「ブッポーソー」と啼くコノハズクの声もここ数年間に聞こえなくなった。自然の変化が影響か。巨木も多く、300年を越える樹齢の木々。一帯は神社の境内林で、殆んど自然のままで、極相林の相を呈している。一部の払下げ地では人工造林が進められてはいる。

■片柳光雄氏講演要旨

武蔵御嶽神社は単立宗教法人で、神社本庁に属さず、独自に運営されている。ふつうの神社では宮司は一人だが、ここでは27軒ある宿坊の御師と呼ばれる主は全てが宮司。御師の家では継承者の子が宮司の親と必ず同居して職を世襲で伝承するしきたり。それぞれの宮司がそれぞれ自分の神社だと思って、崇敬者が40万人と対応している。山岳信仰の以前は民俗信仰とし、山の頂上に宿る神を信仰しはじめ、修験道に取り込まれ、修験者の中から祈祷を生業とするものが現れ、そういう人たちが崇敬者や講社に宿を提供する事によって御師集落が発達してきた。

現在、本殿の社は真東、つまり江戸城を向いているが、これは江戸時代に徳川家康公の命で改築されたもので、元は鎌倉の方角を向いていたと言われている。それぞれの時代の権力者から信奉も集めていた。鎌倉武士の畠山重忠が奉納したという大鎧が国宝として神社に所蔵されている。

武蔵御嶽神社のご祭神は櫛真智命と言って、学問や占いの神様で、このほか23の末社があり、交通安全とか安産などの社もある。これらを27名の宮司で運営している。こちらの神社では、年末には崇敬者のお宅へお札を配って回り、その返礼として崇敬者は翌春に参宮することが習慣となって、相互関係が保たれている。

■所感

武蔵御嶽神社本殿の一番奥に大口真神社があって伝説の白狼「お犬様」を祀っている。諸災除けの神として関東一円に信仰を集めています。これを題材にした『オオカミの護符』の自著の中で、小倉惠美子さんは、山を拝むこの自然への信心が山に詣でる行いの源泉とし、「山を拝むという素朴な行為は、社殿が作られる以前の、山そのものに対する古い信仰を思わせた。」と記している。山の自然を畏れ、敬いながら共生していた先人の自然への信心を呼び覚ます研修となった。

登奈利荘玄関にて参加者全員

第68回 Mountain World

嫌われた？ パキスタン

池田常道

遠征隊のパキスタン離れが止まらない。例年夏は50隊以上の入山をみるのに、今季は約３割以上の減少となっている。その原因は、昨年６月にナンガ･パルバットのディアミールＢＣで起きた、パキスタン・タリバン運動（ＴＴＰ）の武装勢力によるテロ事件（詳細は昨年７月号参照）で露呈した政情不安だ。外国人登山者10人と現地ＢＣスタッフ１人が犠牲となったこの事件は大きな衝撃を与え、被害に遭った隊も免れた隊も、ディアミール側の７隊すべてが登山を中止、ルパール側の１隊だけが続行した。また、他の山域を計画していた登山隊のなかにも中止して帰国したり出発を延期したりした例が見受けられた。その後も、事件捜査のため派遣された軍と警察幹部の車列がチラスで銃撃されて３人が死亡、カラチ空港が武装勢力の襲撃を受け、一時占拠されるなど不穏な情勢が続いている。

パキスタン山岳会（ＡＣＰ）は安全性のＰＲに努めているが、５月末時点での8000m峰への登山申請は26にとどまっている。初登頂60周年を迎えるK2（8611m）には、パキスタン＝イタリア合同の記念登山隊を初めとして約50人、ブロード・ピーク（8051m）にはK2との併願を含めて約80人が挑むが、ガッシャブルムⅠ峰（8080m）はⅡ峰（8034m）との併願で40人弱と例年の半分以下。ナンガ・パルバット（8126m）に至っては、昨年の事件で中止した隊は追加料金なしで入山できるとされたにもかかわらず応じる隊はなく、新規の申請もなかった。

また、トレッカーの減少も著しい。当局は昨年、トレッキング・チームにもリエゾン・オフィサーの同行を義務付けたが、そのため2000ドル以上の出費が必要となることが敬遠された結果だ。リエゾン１人の日当に加えて装備・食糧などの諸費用は、許可を得るのに従来50ドルで済んでいた少人数チームにとって無視できない負担となる。トレッカーが減るということはガイドやポーターの仕事が減ることにも直結するわけで、これらの収入に依存してきた地元経済にとっては大きな痛手となる。ＡＣＰのマンズール・フセイン会長は、防衛相や軍関係者に働きかけて条件緩和を交渉しているというが、治安の回復が実現しなければ元の姿に戻ることは難しいだろう。

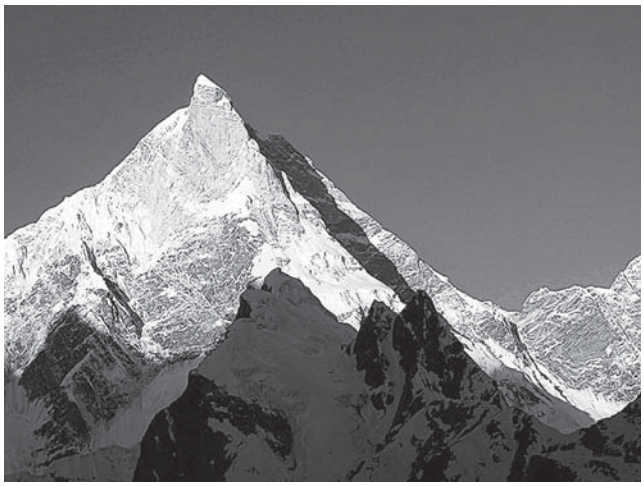
＊

一方、カラコルムが登山者にとって魅力的な場所であることは変わりない。ナンガ・パルバット地域から離れ、脅威の少ないバルトロ、フーシェ、チョゴルンマ方面には未踏峰や新ルートを目ざす登山隊がことしも入山を予定している。

オーストリアのダーフィット・ラマとペーター・オルトナーは、昨年キンヤン・チッシュ東峰に初登頂したハンスイェルク・アウアーと組んでマッシャブルム（7821m）北東壁を狙っている。撮影隊を含めた総勢９人の一行はブロード・ピークの通常ルートを7000mまで数回上下して高所順応過程を消化、マッシャブルムＢＣに入ってすでに最初の試登を行なった。

フランスのマチュー・メイナディエら４人は、未踏のK13（6666m）初登頂を目ざす。ダンサムの別名をもつこの山は５つの6000m級ピークから成り、1981年に近畿大学隊が西峰（6450m）に登っている。印パ停戦ラインに近いことからこのところずっと許可されず、主峰への本格的挑戦はこれが初めてである。

チャラクサ氷河のリンク・サール（7041m）にはイギリスのジョナサン・グリフィスとアメリカのコリン・ヘイリーが挑む。前者はこれが３回目の挑戦にあたる。K7（6934m）では横山勝丘、増本亮、長門敬明が西峰から主峰への縦走を狙う。フンザのウルタル・サール（7388m）では佐藤裕介と一村文隆が南東ピラー初登攀を狙っていたが、都合で遠征を中止した。また、ラトックⅠ峰（7145m）北稜を狙っていたドイツのフーバー兄弟は、政情不安を理由に遠征をキャンセル、今後もこのような事例が出てくるかもしれない。



マッシャブルム北東壁。2006年にアレクサンドル・オディンツォフのロシア隊が挑んで果たさなかった。

新連載

北から南から ブロック便り

関　東ブロック

山梨の山を取り巻く近況

富士山や南アルプス、八ヶ岳、奥秩父など四方を高い山々に囲まれた山梨は、日照時間も長く比較的雪も少ない事から、近年これらの自然環境を求め山岳関係者を含め、県外から多くの人が移り住んでいる。その山岳環境がいま大きく変わろうとしている。

一つは、昨年６月26日に国連教育科学文化機関（ユネスコ）が山梨、静岡両県にまたがる富士山山頂を含めた構成遺産を世界文化遺産に登録したことである。

当初、富士山は文化遺産ではなく自然遺産として登録を目指していたが、富士山を取り巻く環境の課題もあり、申請に当たっては富士山頂の信仰遺跡など、古来より日本人の山岳信仰の拠り所であり、また浮世絵の題材にもなるなど、文化的意義は非常に大きいことから文化遺産としての申請となった。

地元自治体は、登録に伴い登山者や観光客の大幅な増加を期待したが、富士山に限ると、登山者の急激な増加による環境への影響対策としての５合目へのマイカー規制を３１日間と前年より大幅に増やしたため、登山者は吉田口６合目で23万２千人と若干の減少となった。反面、経験や準備不足の登山者が増え遭難件数が大幅に増えたこともあり、昨年は静岡県関係者の強い要望もあり積雪期登山の禁止という議論が両県の関係者で議論され、ガイドラインとしてまとめられ新聞にも取り上げられた。

富士山は、国内での高所順応や冬山訓練の重要な場所であり、一律登山禁止というような措置は是非とも避けたいところである。

また、登録効果か再び北口本宮富士浅間神社を経て馬返しから登る旧来の登山道も見直されている。この道は、冬の登山道として利用されているが、夏に利用されることは比較的少ない。しかし、５合目から頂上に続く赤茶けた溶岩の道に比べ、樹林に囲まれた比較的緩やかで静かな道で、朽ち果てた小屋や神社などを見ながら登ることができることも魅力である。

このように増加する登山者に対し、山梨・静岡両県は昨年７月より頂上を目指す登山者から任意での入山料を徴収することとなった。登山者全員に強制するものではないが、富士山の環境保全を目的に富士山保全協力金として登山者１人につき千円を徴収するもので、今年は７月１日～９月14日までの夏山シーズンを通して任意で徴収することとなっている。

２つ目は、山梨、長野、静岡３県の１０市町村にまたがる南アルプスが、今年６月12日ユネスコのエコパーク（生物圏保存地域）に登録されたことである。登録の名称は、南アルプス生物圏保存地域（南アルプスユネスコエコパーク）。

南アルプスも、当初は富士山同様に世界自然遺産での登録を目指していたが、国内の最終候補から見送られたことから、山梨・長野・静岡の地元市町村は世界自然遺産の前段階としてエコパークでの登録をめざし活動をしていた。今後、自然保護とその資産の活用の両立を目指すことになるが、登山者や観光客の増加も大いに期待している。しかし、世界遺産に比べエコパークは一般的に認知度が低いことからその理念を広めていくことが課題となるが、山梨にかかる南アルプス北部は、国内第２位の北岳（3193ｍ）や今年の４月１日国土地理院の標高の改定により１ｍ高くなり、奥穂高と並び日本第３位となった間ノ岳（3190ｍ）をはじめ、３千ｍ級の山々が連なり、キタダケソウやライチョウなど貴重な動植物も生息している貴重な地域となっていることから、山梨県は長年にわたり南ア北部の自然環境の保全と啓発に取り組んでおり、山岳連盟も貴重な自然を次世代に継承すべく全面的にこの活動に協力をしている。

北岳の登山起点となる広河原への交通規制は、６月25日～11月９日までと既に始まっているが、今年２月には甲府で114㎝と云う観測史上初めてという記録的な大雪もあり、例年に比べ山梨の山にはまだ多量な雪が残っている。

４月の標高の見直しで、山梨には富士山、北岳、間ノ岳と日本の１、２、３位の標高の高い山がそろったことから、訪れる登山者も一段と増加するのではないかと考えられるが、安全には十分注意して登山を楽しんで頂きたい。　（山梨県山岳連盟副会長　小宮山稔）

北岳（撮影・広瀬和弘）

日本の登山界を代表する日山協のあり方
― ワーキング・グループの取り組みについて―
副会長　國松嘉仲

1.はじめに

一昨年（平成24年）11月に開催された臨時理事会で、日山協の今後の在り方を検討するための「プロジェクト・チーム」（ＰＴ）の設置が承認され、「わが国の登山界を代表する使命と役割を果たす」ために、これからの日山協のあり方を問い直し、様々な課題の中から「緊急性が高い」次の４項目を検討することとした。

⑴組織体制の確立（組織改革、会員制度、県岳連・協会の活性化など）

⑵既存事業の見直しと新規事業の企画（事業の見直し、新規事業など）

⑶財政基盤の確立（財政基盤づくり、資金調達など）

⑷組織管理と執行体制の確立（公益法人の機能強化、総合調整など）

これら４つの課題は、①組織、②事業、③財政、④総合の「ワーキング･グループ」（以下「ＷＧ」という）で分担し、第１段階として、平成25年4月からの公益法人移行に備え、平成25年3月10日の理事会・総会までに、「できること」を精査する。

第２段階として、平成25年度中の機会あるごとに、各ＷＧが検討した結果をもとに、実行可能な事項は、その都度協会の運営に反映させる。

2.これまでの主な検討結果

⑴第１段階の昨年３月まで…

①公益法人移行に向けての定款策定と諸規程の見直し。

②「変わる！日山協」の広報パンフの発行。

③３部制（総務部、登山部、競技部）の導入。

④常務理事と各専門委員会委員長との合同会議（運営部会）を開催する。

⑵第２段階の昨年4月以降

①日本山岳会（ＪＡＣ）や全国高体連登山専門部の日山協加盟への働きおこなう。

その結果、全国高体連登山専門部は、平成26年４月から、日山協に正式加盟した。

一方、ＪＡＣは、当面、日山協には加盟せず、「日山協との相互協力のもと、交流委員会（仮称）を立ち上げて、連携強化に努める」としている。

②これまでの評議員会に代わる「代表者会議」の設置。

③３部制の下での執行体制確立のため、各専門委員会の整理統合を行う。

■「総務部」（部長１名、副部長１名）

これまでの委員会（総務、財務、広報、共済）を、企画委員会・財務委員会・国際委員会の3委員会を置く。また、総務部に事務局を置き、平成26年4月より実施。事務局では、会員管理（山岳会会員、共済会会員、個人会員）選手登録管理、各種事業事務および会計事務を行う。選手登録管理については､平成26年3月に稼働。

■「登山部」（部長１名、副部長１名）

現在の6つの委員会（指導、遭対、ジュニア（普及）、自然保護、国際、医科学）を安全教育委員会、環境委員会の2委員会を置く。

ただし、組織統合の前に、事業ＷＧ、組織ＷＧのアクションプランとの整合性をはかり、登山部の各委員会の活動目的と守備範囲を決めるため、既存委員会代表者からなる「登山部統合準備委員会」を平成26年６月に設置し、９月を目処にまとめ、平成27年度から新体制に移行する。

■「競技部」（部長１名、副部長２名）

現在の３つの委員会（競技、技術、選手強化）を、競技運営委員会、競技技術委員会、選手強化委員会の３委員会とする。

ただし、競技運営委員会については、国体山岳競技とクライミング競技の運営のあり方を再検討し、平成27年度から新体制に移行する。

また、スポーツクライミングが、今後オリンピック種目になるために､国際スポーツクライミング連盟（ＩＦＳＣ）のルールに準拠した、新たな組織（国内競技連盟（ＮＦ））づくりと組織強化に取り組む。

④ドーピング防止委員会、医科学委員会は、「３部制」とは別に設置して、中立性・独立性を持たせ、委員長は理事が担当する。

⑤「女性委員会」の設置も検討する。

⑥個人会員制度の導入

日山協加盟岳連の会員は、地域山岳会や職域山岳会などに所属しているが、それらの会員とは別に、各岳連には「楽しく安全な登山がしたい。でも組織に縛られたくない」登山愛好者のための受け皿として、既成の山岳会に所属しない「○○クラブ」とか「パーソナル会員」（個人会員制度）が岳連組織内に設置されている。

その実態を平成26年４月「アンケート調査」を行った結果、47都道府県岳連（協会）のうち33道府県（回

答率70％）から回答があり、そのうち、22道府県（67％）で個人会員制度を導入していることがわかった。

このような実態から、日山協の個人（登録）会員制度の導入については、当面、各岳連が導入している個人会員制度を、全国の岳連（協会）に導入して、広く一般登山愛好者の組織化と遭難事故防止等安全登山普及啓発に努める。

⑦既存事業の見直し

■平成26年度は、これまで実施してきた事業すべてについて、予算・人事・必要性・負担・労力・時代性・成果・将来性について抜本的に見直すこととする。

その中で、全日本登山体育大会は、平成27年度開催の「第54回宮城大会」から、大会運営のあり方も含め見直すこととし、広く一般の登山愛好者も参加できる大会を目指し、平成２６年９月を目処に検討結果を出すこととした。

⑧新規事業の企画

既存の事業見直しとともに、日山協の活性化につながる新たな事業の創出を検討する。

■平成26年度から「安全登山実践講座―基礎編」として、取り組めるよう指導教程を作成し、平成２６年度は、東京都岳連で実践講座を実施することとした。

■「山の検定」

平成25年度は、一般社団法人日本山岳検定協会の「山の知識検定」公認することにし、設問や回答の監修に協力した。

■「トレイルランニング」

トレラン大会を運営している有識者と「日本におけるトレラン事業展開について」協議し、「全国トレラン連絡協議会」を立ち上げを念頭に、トレラン競技の実態調査を行った。

今後日山協がどう関わっていくのか、関係者と協議し結論を得たい。

⑨安定財源の確保

組織の要諦は「人事と財政」と言われるように、日山協の財源確保は、傘下岳連の体力強化や不特定多数の登山者への対応に欠くことができない。そのための方策として

■共済会会員の拡大5万人を6万人へ

平成25年度山岳共済会入会者は、54,409名で、前年対比374名の増となった。当面の目標として、６万人の会員拡大に取り組む。

■各種登録料の見直しと新たな認定制度の導入

■個別事業に対する企業などの協賛やグローバル・パートナーの募集を行う。

■各種登録・認定に伴う物品の販売等

■個人からの寄付金を募る

⑩広報・宣伝活動

■「日山協が生まれ変わります。」というＣＤを傘下岳連に配布。

■安全登山のしおり（7万部）

■「日本山岳協会は、日本を代表する山岳団体です」の発行。

この，リポートは、去る5月25日に開催された、「平成26年度定時総会」に報告したものを、要約したものです。

ワーキング・グループ（ＷＧ）

①組織ＷＧ　八木原圀明、西内博、森下健七郎、北村憲彦
②事業ＷＧ　佐藤旺、仙石富英、水島彰治、小野倫夫、宮﨑良平
③財政ＷＧ　田中文男、相良忠麿、尾形好雄、小野寺斎
④総合ＷＧ　國松嘉仲、尾形好雄　小野寺斎

【提言】その1　登山者の姿が見えない

大阪府山岳連盟理事長　飛田　典男

一般的な統計情報では日本の登山者人口は800万人とも1000万人とも言われている。これは神﨑会長が常々口にされることでもある。これほどまでに多くの人達が山を楽しんでいるのに、その実態が明確には把握できていない。その一方で全国の日山協会員の高齢化と会員数の減少が急速に進展し存続の危機にある。この矛盾への処方箋のないまま事態は深刻さを増している。日本の登山界をリードすることを自認する日山協でありながら裾野で活動する登山者（登山愛好家）へのメッセージを発信できずにいる。

先に策定されたアクションプラン2014～2020（以下AP2014）でもこれらを把握しきれていない。登山者（未組織登山者）を置き去りにしたままでしか将来像が描けていない。今の組織の有り様では根っ子の問題への発想さえも浮上してこないのではないだろうか。例えば次のような課題である。

・未組織登山者の会員登録
・既存会員の高齢化（衰退化）
・遭難者の増加への歯止め

いずれも現状において取り上げられている課題の様に一見思われるが、実は立ち位置が現状のスタンスのままなので解決に至らないのである。

仮に日山協の会員を共済会の加入者数+αと考え10万人としても分母の1000万人の１％でしかないのである。公益法人としての発想の基盤をここに据えて施策を練らなければ問題解決の糸口は見えてこないのであ

る。AP2014を見直し、登山を楽しむ大多数の人々に目を向けない限り現状のジレンマから脱却することはないものと考える。

その為には過去の枠組みに囚われることなく、登山者全体の把握を行った上で求められる施策への大転換が求められているのである。仮に将来会員数が50万人となったことを考えれば視界は全く違ったものになるはずである。現状に甘んじ、ぬるま湯に浸かっているとは言わないが、変革を迫られているのに手を拱いていたのでは批判は免れない。過去の憧憬を払底して、大多数の登山者のニーズを正しく理解することに力を傾注しつつ大多数の登山者との乖離を解消するための外科手術が必要だと考える。

本論はあくまでも私見であり多くのご批判を覚悟の上で投稿を試行した。単なる問題提起に終わらせるのではなく、課題をより掘り下げその解決の端緒に結びつけたい。多くの建設的なご意見を期待している。

ミック・ファーラー氏来日

英国山岳会（ＡＣ）の前会長ミック・ファーラー（58歳）氏が来日した。今回の来日は、登山用品メーカー・バーグハウスの招請で、氏の初来日となった。滞在中は関西地区でのイベントに出席したり、小豆島でのクライミングなどを楽しまれた。

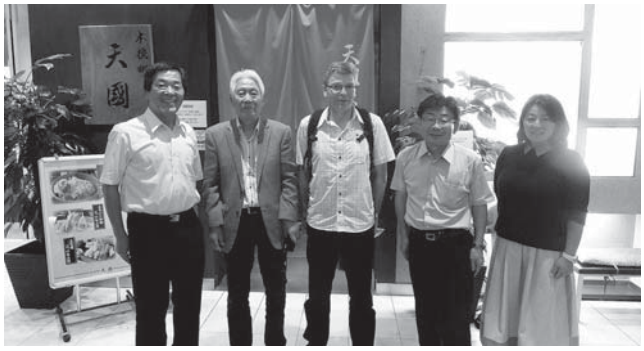
ファーラー氏については、本誌537号で紹介の通り、８歳の時に父ジョージ・ファーラーに連れられてハリソン・ロックで岩登りを始めてから10代、20代とクライミングに凝り、20代はアルプスをはじめコーカサス、ペルー、アフリカ、カラコルムのクライミングに出かける。1987年、31歳のときスパンティーク（7,027m）ゴールデン・ピラー（北西壁）を初登攀。其の後、93年、インドのセロ・キシュトワール（6,220m）、95年ネパールのタウツェ（6,501m）北東ピラー、97年ガルワールのチャンガバン（6,864m）北壁、99年ガルワールのアルワ・タワー（6,352m）北西壁、2000年にはユーコンのマウント・ケネディ（4,237m）北西壁、02年には長年のザイル・パートナーのポール・ラムスデンと四姑娘山（6,250m）北西壁を初登攀してこの年のピオレドールに輝いた。04年チベットのカジャチョ（6,447m）、07年モナムチョ（6,264m）、10年新疆のスラマール(5,380m)北壁初登攀、11年西ネパールのゴジュン（6,310m）初登頂、12年インドのシヴァ（6,142m）北東ピラー初登攀など世界の辺境の鋭峰を数多く初登攀している。

税務官としてフルタイム正業に就く氏の遠征は、年に1回の有給休暇4週間の範囲内で行われるために、長い氷河などアプローチに時間がかかる山は敬遠される。昨年10月にはインドのキシュトワール・カイラス（6,451m）に初登頂。今秋（９月）もキシュトワールを再訪し、鋭峰に挑むとの事。

私がギャラ・ペリ（7,294m）やリモＩ峰（7,385m）に初登頂し、ブータンの最高峰・ガンケル・プンスム（7,541m）に挑んだことを知った彼は、冬のエベレスト南西壁の話よりそれらの山に興味があったようだ。

ＡＣ会長職は、昨年12月末に世界一のジャーナリストの誉れ高いリンゼイ・グリフィン新会長にバトンを渡された。１男２女の父。著書に『ON THIN ICE』

（記　尾形好雄）



JMA 平成26年度６月（26年６月）常務理事会・連絡部会報告

日　時　平成26年6月12日㈭
常務理事会:17時35分～19時
連絡部会　:19時～21時
場　所　岸記念体育会館103会議室
出席者
常務理事会：神﨑会長、八木原・國松・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、仙石、森下、京オ、水島、瀧本、青木各常務理事、中畠監事〈委任〉西内常務理事（理事13名12名出席）
連絡部会：増山、北山、石倉、澤田各委員長〈委任〉相良理事、西原、山本、角田各委員長（委員長長8名中4名出席）

1. 専門委員会動静
5月常務理事会以降（4月25日～6月11日）
［報　告］
⑴自然保護委員会
5月8日㈭　出席者9名
ア　4月常任委員会議事録確認
イ　山岳団体自然環境連絡会（4/25）報告
・アジア山岳自然保護会議の運営について
・トレランに関わる環境省ガイドラインの作成動向について
・AACサステナブルサミットについて
ウ　山と自然の聖地の集い（4/28）報告

エ　「自然保護指導員の手引き」の出版状況について
オ　環境省自然公園指導員の活動状況報告について
カ　常任委員研修会の進捗状況について
キ　第38回自然保護委員総会について
ク　第39回自然保護委員総会の開催候補地について
ケ　自然保護委員会アンケート集約について
コ　自然保護指導員育成出前講座について
サ　第3回関東地区自然保護交流会の進捗状況について
⑵指導委員会
5月12日㈪　出席者9名
ア　4月常任委員会議事録確認
イ　5月常務理事会及び理事会（第1回）報告
ウ　氷雪技術研修会（富士山）の報告
・A級（5名）・B級（1名）主任検定員は全員合格
・研修会:9名（含山梨の学生4名）
エ　指導・競技合同会議（4/21）の報告
・SC主任検定員養成講習会を予定（8/23～24、神奈川県山岳スポーツセンター）
・次回開催:7/14
オ　指導員の認定申請について
・AC指導員:大和田哲夫、馬場和男、渡邊恵子、吉田睦、吉田貴子、西牧和子（以上、福島6名認定）
カ　指導者養成講習会実施申請について
・AC指導員:石川、長野、岩手
・AC上級指導員:長野、宮城、岩手
キ　公認スポーツ指導者功労表彰候補者推薦について
・平成27年度:亀田行宣（石川）、西原斗司男（兵庫）、雨宮節（沖縄）
ク　指導員総会・研修会の準備について
ケ　安全登山実践講座について
・規程を検討中。指導員総会で発表・承認を諮る。
⑶国際委員会
5月13日㈫　出席者11名
ア　国際委員総会兼第33回海外遭難対策研究会について
・6/14㈯～15㈰、長野県山岳総合センター
イ　AAC の International Climbers Meetについて
・10/6～11、ヨセミテ（6/16〆切）
ウ　海外からの国際交流（招待・派遣）依頼の広報について
・担当者を決めて迅速に対応する。（担当者:澤田、加藤、岩崎）
⑷医・科学委員会
5月17日㈯　出席者8名
ア　UIAA医療委員会向けの日本カントリー報告の作成について
イ　UIAA医療委員会の登山と医療に関するRecommendation（推奨）邦訳の推進について
ウ　認定山岳医制度、山岳ファーストエイド制度について
エ　UIAA医療委員会への委員長出席について
・5/29　イタリア Bolzano
・各国報告/山岳医療Recommendation/Dimm山岳専門医制度について
⑸ジュニア・普及委員会
5月19日㈪　出席者3名
ア　立山ジュニア登山教室2014について
イ　立山ジュニア登山教室2015の施設予約について
ウ　平成26年度中高年安全登山指導者講習会について
エ　第53回全日本登山体育大会について
⑹競技部合同委員会
5月22日㈭　出席者10名
ア　国体山岳競技規則集の改訂について
・山岳競技施設認定規則第10条の再議
・山岳競技審判員及びルートセッター選考規則第3条の再議
イ　平成26年度事業担当者について
ウ　クライミング日本選手権について
・平成26年度の開催は中止
エ　平成26年度の会議日程について
オ　国体参加者負担金の改訂調査について
カ　ブロック別研修会の内容検討について
キ　競技部HPの内容の検討と活用について
ク　B級以上のセッター、審判員の登録管理について
ケ　地下倉庫の保管文書の取り扱いについて
コ　5月常務理事会及び理事会（第1回）報告
サ　第9回山岳スキー競技日本選手権大会報告
シ　IFSCクライミングWC印西大会2014の実行委員会報告
ス　第17回JOCジュニアオリンピックカップ実施要項について
セ　クライミング・アジア大学選手権への派遣について
⑺指導委員会
6月2日㈪　出席者10名
ア　第2回理事会報告
イ　雪上技術研修会（富士山）報告
ウ　公認スポーツ指導者事務担当者会議報告
エ　指導委員総会・研修会の準備状況について
オ　公認スポーツ指導者養成講習会実施申請について
・AC指導員:大阪（S:飛田）、千葉（S:蛭田）、埼玉（S:野村）
・AC上級指導員:大阪（S:飛田）、埼玉（S:野村）
・SC指導員:福井（S:永井）
・申請済み:AC指導員（石川、長野、岩手）、AC上級指導員（長野、宮城、岩手）
カ　公認スポーツ指導者表彰候補者推薦について
・小山幹（宮城）、開澤浩義（富山）、蛭田伸一（千葉）
・日山協功労表彰候補者推薦:亀田行宣（石川）、西原斗司男（兵庫）、雨宮節（沖縄）
キ　安全登山実践講座について
ク　規程の一部改訂について
・AC上級指導員の受講条件について
⑻遭難対策委員会
6月4日㈭　出席者10名
ア　委員総会の準備（参加者、集合時間）について
イ　平成26年度全国山岳遭難対策協議会の内容について
ウ　位置探査機ヒトココの開発および普及状況について
・平地で300mの探知距離だったものが、ラジコンヘリで50mあげたら数kmへ探知距離が伸びた。
・複数台でエリアを分担し、探査すると早く発見できる。
・霧島市で実際の事故事例の場所に探査機子機を置き、親機で探索したところ実事故では大規模捜索で発見できなかったものが1人で11分で発見できた。
・九州の青少年自然の家には納入している。
・古い親機、子機は送ってもらえば最新のものにバージョンアップできる。
エ　ヒトココのレンタルの提案
・日山協の安定財源になりうる。
・登山者に認知され、持っている人が増えないと役に立たないので認知の方法として遭難撲滅に熱心な

長野県、遭難減少が業績に寄与する三井住友、日山協の共済会などが組んで実証実験をしてはどうか?
・日山協直接でなく共済会事業としてデモ機をそろえ、各岳連に貸し出してはどうか?
オ　ロープ強度試験の準備について
カ　日中韓三国技術研修会の準備状況について
キ　WGの進捗状況報告
⑼国際委員会
6月10日㈫　出席者14名
ア　平成26年度定時総会報告
イ　GIRI GIRI BOYS ウルタルⅡ峰登山隊(奨励金交付隊)の遠征中止について
ウ　登山部統合準備委員会（7/12）について
エ　国際委員総会・第33回海外登山遭難対策研究会の準備について
オ　海外登山奨励金制度の告知について
カ　海外登山懇談会について
・11/6㈭、国立オリンピック記念青少年総合センター

2. その他の重要事項

（4月25日～6月12日）

［報　告］

⑴8月11日「山の日」祝日法改正案が衆議院本会議で賛成多数で可決。　4月25日㈮
⑵山岳団体自然環境連絡会
4月25日㈮　於:労山事務所
石倉委員長、徳永・松隈副委員長
⑶ドーピング防止打合せ
4月26日㈯　於:甲府・精発会議室　内藤監事、尾形専務理事、角田委員長、西原委員
⑷氷雪技術研修会
4月26日㈯～27日(日)　於:富士山　永井副委員長ほか
⑸山と自然の聖地の集い
4月28日㈪　於:新橋ニュー新ホール　石倉委員長ほか
⑹トレランの未来を考える全国会議
4月28日㈪ 於:河口湖円形ホール
佐藤副会長、宮地委員
⑺平成26年度理事会(第1回)
5月10日㈯　於:岸記念体育会館101～103号室　神崎会長ほか理事・監事
⑻WG全体会議
5月11日㈰　於:岸記念体育会館505号室　神崎会長ほか
⑼K2映画特別鑑賞会
5月17日㈯　於:イタリア文化会館　神崎会長、小野寺常務理事
⑽平成26年度神奈川県山岳連盟代議員会　5月20日㈰　於:神奈川県立スポーツ会館　神崎会長
⑾JOC選手強化助成金説明会
5月22日㈭　於:渋谷シダックスホール　小野寺常務理事、中川事務局員
⑿8/11「山の日」祝日法改正案、参議院本会議で可決。　5月23日㈮
⒀山岳団体自然環境連絡会
5月23日㈮　於:労山事務所
石倉委員長、徳永・松隈副委員長
⒁平成26年度定時総会
5月25日㈰　於:岸記念体育会館
神崎会長ほか正会員・理事・監事・委員長
⒂平成26年度理事会(第2回)
5月25日㈰　於:岸記念体育会館
神崎会長ほか理事・監事
⒃UIAA MedCom Meeting
5月26日㈪～30日㈮　於:イタリア・Bolzano　増山理事
⒄平成26年度東京都山岳連盟総会
5月27日㈫　於:国立オリンピック記念青少年総合センター
神崎会長
⒅平成26年度公認スポーツ指導者育成事業事務担当者会議
5月28日㈬　於:渋谷シダックスホール　小野寺・瀧本常務理事、蛭田副委員長
⒆全国「山の日」制定協議会総会
5月28日㈬　於:憲政記念会館
神崎会長、尾形専務理事
⒇UAAA理事会
5月30日㈮～6月2日㈪
於:香港　神崎会長、小野寺常務理事、山田広島岳連副会長
㉑日本大学山岳部創立90周年記念祝賀会　5月31日㈯　於:アルカディア市ヶ谷　八木原副会長
㉒平成26年度山岳遭難対策中央競技会幹事会（第1回）　6月5日㈭
於:文部科学省会議室
西内常務理事、中川事務局員
㉓JOC総務委員会第1回総会
6月5日㈭　於:岸記念体育会館理事・監事室　小野寺常務理事
㉔平成26年度指導委員総会・研修会　6月7日㈯～8日㈰　於:海員会館（晴海）　佐藤副会長、瀧本常務理事
㉕長崎国体第2回基準会議
6月6日㈮　於:長崎・大村市

寄贈図書

雑誌	山と溪谷社	「ROCK & SNOW」2014 Jun.
	東京新聞出版部	「岳人」No.805 2014 JULY
	山と溪谷社	「山と溪谷」2014 7月号
会報	(公財)東京都スポーツ文化事業団	「スマイルスポーツ」Vol. 58
	国立大学法人鹿屋体育大学	「邁進 」第20号
	モンベル	「OUTWARD」SUMMER 2014 No.64
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.434 2014.6
	横浜山岳会	「月刊 山」984号 2014年6月
	Corean Alpine Club	「山」Vol. 236 2014MAY-JUNE
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第511号
	(公財)日本体育協会	「スポーツニュース・フェアプレイニュース」2014年6月2日号
	新潟県山岳連盟	「新山協ニュース」第313号
	埼玉県山岳連盟	「埼玉岳連」通巻第48号
	(公財)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.296
	中国登山協会	「山野 中国戸外」第190期
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」第217号
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.473 2014.7
	徒登行山岳会	「徒登行」第27号 40周年記念号
	やまびこ山想会	「やまびこ」第154号
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第408号
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol. 186 2014 JUNE
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」6月号
	東京野歩路会	「山嶺」vol91 No.1012
	日本山岳会	「山」2014年6月号 No.829
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第408号
	飯豊連峰保全連絡会	「飯豊連峰保全連絡会ニュースレター」第22号
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.655
	日本ヒマラヤ協会	「ヒマラヤ」No.469 2014SUMMER
	日本トレーニング指導者協会	「JATY EXPRESS」2014 JUNE vol41
	福岡山の会	「せふり」平成26年7月分No.363

神﨑会長、國松副会長、森下常務理事、西原・山本・北山各委員長
(26)第28回リード・ジャパンカップ
6月7日(土)～8日(日)　於:長崎・大村市
神﨑会長、國松副会長、森下常務理事、西原・山本・北山各委員長
(27)自然公園財団平成26年度第1回理事会　6月10日(火)　於:自然保護財団　本木顧問
(28)日体協国体運営部会
6月11日(水)　於:岸記念体育会館
西原競技運営委員長

3. 議　事

(1)平成26年度5月常務理事会議事録の承認について（承認）
(2)平成26年度定時総会議事録の承認について（承認）
(3)平成26年度理事会（第2回）議事録の承認について（承認）
(4)平成26年度公認スポーツ指導者等表彰候補者の推薦について
小山幹（宮城）、蛭田伸一（千葉）、開澤浩義（富山）の3候補者推薦を承認
(5)国民体育大会功労者表彰対象者の推薦について（該当者なしで承認）
(6)報告
ア　会計月次
イ　各専門委員会報告
ウ　「山の日」制定の報告
エ　後援名義申請の扱いについて
オ　オフィシャル・パートナーについて
カ　審判セッターの国際資格取得のアジアコンチネンタルコースの受講者派遣について
キ　平成26年度専門委員候補者推薦について
ク　インターハイ登山大会（神奈川）役員視察について
ケ　内閣府提出書類について
コ　日本代表選手について
サ　クライミング日本選手権大会の中止について
シ　平成26年度全国山岳遭難対策協議会について
ス　第8回登山医学セミナーの案内
セ　消防団を中核とした地域防災力充実強化大会について
ソ　長崎国体リハーサル大会の報告
タ　全国トレラン協議会設立準備会について
チ　IFSCクライミング印西大会2014実行委員会報告
ツ　UAAA理事会報告

4. 役員等の派遣について

(1)第1回加盟団体連絡会議兼ドーピング防止研修会　6月13日(金)　於:ベルサール九段　中川事務局員
(2)「広島山岳平和祭」打合せ
6月18日(水)　於:岸記念体育会館
神﨑会長、尾形専務理事、小野寺常務理事、石倉委員長
(3)第41回山の自然と文化を語る会
6月19日(木)　於:ニュー新ホール
石倉委員長
(4)日本ワールドゲームズ協会第17回総会　6月24日(火)　於:日本財団ビル2F　尾形専務理事
(5)日本体育協会平成26年度評議員会　6月25日(水)　於:品川プリンスホテル　神﨑会長
(6)平成26年度遭難対策委員総会
6月28日(土)～29日(日)　於:あしがら勤労いこいの村　神﨑会長、八木原副会長、西内常務理事
(7)平成26年度全国山岳遭難対策協議会　7月4日(金)　於:文科省講堂
神﨑会長、尾形専務理事、西内常務理事、中川事務局員
(8)平成26年度谷川岳山開き（安全祈願祭）　7月6日(日)　於:土合霊園地　神﨑会長、八木原副会長
(9)日体協競技団体評議員連合会総会
7月8日(火)　於:岸記念体育会館
尾形専務理事
(10)登山部統合準備委員会
7月12日(土)　於:岸記念体育会館
八木原副会長、西内・仙石・瀧本・青木常務理事、北村理事、澤田・石倉各委員長
(11)山岳4団体懇談会　7月16日(水)
於:うすけぼーチャイナ市ヶ谷
神﨑会長、八木原・佐藤副会長、尾形専務理事
(12)平成26年度toto助成金交付式・スポーツ交流会　7月16日(水)
於:セルリアンタワー東急ホテル
小野寺常務理事
(13)平成26年度全国高等学校総合体育大会総合開会式　8月1日(金)
於:味の素スタジアム　神﨑会長

5. 後援、協賛等の依頼について

(1)「第7回コバトンボルダリングカップ2014」の後援名義使用（埼玉岳連主催）事前回議にて承認
(2)映画「クライマー パタゴニアの彼方へ」の後援名義使用（（株）シンカ）事前回議にて承認
(3)「認定国際山岳医講習会」の後援名義使用（日本登山医学会主催）（承認）

6. 報　告

(1)指導員の認定承認
①AC指導員
大和田哲夫、馬場和男、渡邊恵子、吉田睦、吉田貴子、西牧和子（以上、福島6名認定）/（承認）

編集後記

日本赤十字社神奈川県支部に救護関係三奉仕団があり、先月21日創立記念式典・懇親会に参席させていただいた。救護、無線救急各奉仕団が50周年、山岳奉仕団が40周年。救護奉は昭和38年の国鉄鶴見事故、無線奉は昭和39年の新潟地震、山岳奉は昭和40～50年代丹沢山塊の遭難事故多発と、様々な災害救助を目的に発足。当初より三つの精神「必要とされている」「自ら現場に」「無報酬」の高い志で続いていると聞く。来るべき首都直下地震、東海地震などの災害救助に率先垂範していると思う。益々の活躍を祈念します。　（広報担当　水島彰治）

登山月報　第544号
定　価　110円（送料別）
予約年間　1,300円（送料共）
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
（毎月1回15日発行）
発行日　平成26年7月15日
発行者　東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会
電　話　03－3481－2396
FAX　03－3481－2395

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
蛭ケ岳山荘　TEL:090-2252-3203（衛星電話）
神の川ヒュッテ　TEL:042-787-2276
和田峠「峠の茶屋」　TEL:042-687-2882
理事長・代表　杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
◦ 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
◦ 陣馬山トレイルレース実行委員会
◦ 八重山トレイルレース実行委員会
◦ 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
大会々長　杉本憲昭

平成26年度中高年安全登山指導者講習会申込受付中

中高年の体力等に応じた登山の知識や技能について習得するとともに研究協議を行い、
中高年登山指導者の養成と安全な登山の普及を図る講習会です。奮ってご応募ください。

【東部地区】

期　日　平成26年9月26日（金）～28日（日）
会　場　岩木青少年スポーツセンター、岩木山
主　管　青森県山岳連盟
内　容
◎講義：中高年登山の現状と課題（北村憲彦講師）／登山時のファーストエイドの知識と実習（大城和恵講師）／岩木山周辺の動植物について（阿部東講師）
◎実技：百沢登山口から岩木山登山で実技講習
参加費　14,000円
（宿泊費・食費・保険料・資料代他）

申込締切り　8月29日（金）

申込先　日山協事務局　FAX:03-3481-2395
E-mail:info@jma-sangaku.or.jp
実施要項　http://www.jma-sangaku.or.jpからダウンロードできます。

【西部地区】

期　日　平成26年11月1日（土）～3日（月・祝）
会　場　休暇村蒜山高原、蒜山三山
主　管　岡山県山岳連盟
内　容
◎講義：中高年登山の現状と課題（北村憲彦講師）／登山時のファーストエイドの知識と実習（大城和恵講師）／有痛性筋痙攣への対処法（知野亨講師）
◎実技：上蒜山登山口～上蒜山～中蒜山、塩釜登山口～中蒜山、蒜山周回ウォークの3コースから塩釜登山口に下る行動で実技講習
参加費　23,000円
（宿泊費・食費・保険料・資料代他）

申込締切り　10月17日（金）

申込先・実施要項　東部地区と同じ

詳しくは ➡ http://www.sangakukyousai.com

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金　10：00 ～ 17：00（土・日・祝日除く）

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL：03-5958-3396　FAX：03-5958-3397
E-mail：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
ＵＲＬ：http://sangakukyousai.com